

第2回岩手県地域公共交通活性化協議会沿岸地域部会 議事要旨

1 日時

平成30年10月11日（木）14:00～16:00

2 場所

釜石市（釜石地区合同庁舎 4階大会議室）

3 主な議事内容

- (1) 岩手県地域公共交通網形成計画の骨子（案）について
- (2) 沿岸地域の将来的な公共交通ネットワーク（叩き台）について
- (3) 今後のスケジュールについて

4 主なご意見等

- (1) 岩手県地域公共交通網形成計画の骨子（案）について
 - ・ 計画期間は平成31年度から平成35年度ということでよいか。
⇒（事務局）そのとおり。5年間ということで考えている。
- (2) 沿岸地域の将来的な公共交通ネットワーク（叩き台）について
 - ・ 盛岡釜石線、盛岡大船渡線について、今回、幹線に位置付けられているが、現在は本数が充実している訳ではないため、今後計画を策定する際に、本数やルートなどを整理していくこととなるのか。
⇒（事務局）今後ご相談させていただきたい。
 - ・ 公共交通を必要としている対象者をどの様に推定するのか。
⇒（ケー・シー・エス）乗降調査を今月中に実施する予定。朝昼夕に調査を行うことで、利用者の属性や利用目的等の確認を行う。
- (3) 今後のスケジュールについて
 - ・ 国への提出はいつ行うのか。
⇒（事務局）ある程度形になったところで、国に内容の確認・相談をする予定。同時に市町村へもお渡しし、並行して意見をいただく。
 - ・ 第4回の協議会ではほぼ成案を提示することとなるのか。

⇒（事務局）そのようにできればと考えている。

- ・ 計画に現在の路線と異なる形で反映される場合は、市町村の議会にも説明できる機会を設けられるようなスケジュールで進めていただきたい。
- ・ 中井線と陸前高田住田線は、特に高校生の通学に役に立っている重要な路線であると考えており、計画策定の際は利用特性を考慮願いたい。
- ・ 今後県が行う乗降調査について、情報の提供が可能であればいただきたい。

⇒（事務局）乗降調査結果については、情報提供することは可能。

- ・ 106 急行について、盛岡宮古横断道路が整備されると川井地区の集落を通過することとなる。川井の住民は、106 急行を生活交通として利用しており、今後検討が必要となる。
- ・ 宮古山田間は現在振替輸送を実施しており、1日22往復の運行をしているが、山田線移管後は震災前と同レベルの9往復程度に戻したいと考えているため、今後市町村と、本数や想定される利用者等について検討していきたい。
- ・ 要件割れしている路線について、時間帯によっては通学に利用されていることが明確に分かる路線もあり、そういった路線は維持していかなければならないと考えている。
- ・ 震災前とは状況が異なるため、山田線が開通した後の利用状況をみながら、必要に応じて見直しをしていければいいと考えている。
- ・ 利用実態の調査以外にも、利用者以外がなぜ利用できないのか、ということについても可能な限り調査を行うことが効果的ではないかと思う。
⇒（事務局）市町村でも計画策定にあたり、アンケート調査をしているかと思うので、活用できればと思う。また、県としてもパブコメは実施するため、その様なご意見があれば吸い上げる必要があると考えている。限られた時間・予算の中でやっていければと思う。
- ・ 山田線、JR、BRTもあるため、協議会だけではなく、地域別部会の段階で

も、鉄道事業者の方を含めて意見交換していただければ、より効果的な会議になると思う。

- ・ キーワードは「被災地特例の終了にどう備えるか」。現状のまま被災地特例が終了すると、幹線路線がボロボロになる可能性がある。
- ・ 全部をバス交通で担うのではなくて、実態に適したモードへの切り替えで、上手く接続しあいながら持続性を高めていく局面に入っている。この場合には、市町村の役割の比重が高まってくることは十分考えられる。
- ・ 県が一步踏み出すことも重要。これまで、広域路線の調整については、やや県は引いていた部分がある。路線は広域に跨るため、県が一步出て、圏域の持続ある交通網を作らなければならない。
- ・ 事業者だけではなく、皆がプレイヤーとなって、網形成計画に係る議論を深めて行ければと思う。